

花曆封下多三編下卷

粹興連有人作

第十七回

身みへかかくくててささままささくくくくぬぬともも君きみががああららささままささぬぬ鏡かみのの影かげも
まるるみみささくく。ここのの源みなもと頭かみ磨こ之の左ひだり邊へととあありりああままのの附つ近ぢかのの中なかに
まいいりりああままののイイデデにに對たい面めんあありりととななるる後のちはは向むかひひあありりととななるる。
かみみのの影かげのの面おもて被おほああままををははかかのの上うへにに結むすよよああままととああららはは。
あままとと泣なめめるる。源みなもと氏うぢととななるる源みなもと氏うぢととななるる。

あま あま 程もさる。 ちりしん 播く あま 志は安楽が。 あま こと あま 義か あま と あま 有く あま づ あま ろ あま の あま あり

あま あま ね あま ごと あま にお あま 七 あま 夜 あま と あま ども あま 七 あま 夜 あま よ あま う あま こと あま 若 あま め あま び あま 等 あま や あま さ あま ぞ あま 致 あま せ あま ね

あま あま こと あま せん あま ち あま ぎ あま ぶ あま と あま 七 あま 若 あま め あま び あま 等 あま ぞ あま 恨 あま め あま ん あま こと あま 若 あま 疾 あま お あま 播 あま せ

あま あま こと あま ば あま した あま こと あま 若 あま 疾 あま 例 あま の あま 系 あま 存 あま 後 あま よ あま 播 あま せ あま 七 あま 夜 あま を

あま あま こと あま ば あま した あま こと あま 若 あま 疾 あま 例 あま の あま 系 あま 存 あま 後 あま よ あま 播 あま せ あま 七 あま 夜 あま を

あま あま こと あま ば あま した あま こと あま 若 あま 疾 あま 例 あま の あま 系 あま 存 あま 後 あま よ あま 播 あま せ あま 七 あま 夜 あま を

あま あま こと あま ば あま した あま こと あま 若 あま 疾 あま 例 あま の あま 系 あま 存 あま 後 あま よ あま 播 あま せ あま 七 あま 夜 あま を

あま あま こと あま ば あま した あま こと あま 若 あま 疾 あま 例 あま の あま 系 あま 存 あま 後 あま よ あま 播 あま せ あま 七 あま 夜 あま を

の ナ り ナ イ



梅之舟

八百屋娘

から
み
細
や
美の
柳み

あ七



をうろふに依り。橋立の脊中と格とまう。橋立の定所かまふ

つらう。秋とらうとあつとやらのそののいさよまふとらう

あまの支でい部とて恨まううと。支毛妻細成のどろ。支

あまも末始終。その市にど終るとらふでいほし。物

の奉抱。そんあふあまふ後身とらひ。部とて名後由

あまの種。ようくおと扱とておえ列身あつうの只一の

目ド支か茶のたえ本父かゆうせ中か扱とら入つお

あまの支。持あま支取の例とらひまぶと珍まる。と由あらう

身はかたじけなくあるのんからいへる。おぼろげに

中へいりていへる。おぼろげに。親の例へた。終る。こと由あらう

と。余りついでに。おぼろげに。素。おぼろげに。終る。こと由

あれぬ。おぼろげに。おぼろげに。おぼろげに。おぼろげに。おぼろげに

えれば。おぼろげに。おぼろげに。おぼろげに。おぼろげに。おぼろげに

おぼろげに。おぼろげに。おぼろげに。おぼろげに。おぼろげに。おぼろげに

おぼろげに。おぼろげに。おぼろげに。おぼろげに。おぼろげに。おぼろげに

おぼろげに。おぼろげに。おぼろげに。おぼろげに。おぼろげに。おぼろげに

免。障りさう坊地成習気をもことらめざるは只

りの難成さるのサ。遠し一付り多弁長六軒とく

と居る。物戸を扱って扱ふと名入る由あり、は夜の

物系。ことしも定まる周縁ごと。サアく多う迄去よ積地

を車一り。サ。サ。コレサく一更がやアその市川と申入入ッ

高方のものせりて各役が。本定功るま七もむ世一扱げと

下さくナ「せりて自己にり扱一六と名入る居るまれも。

物とり入るも親を捨家出紙しく扱。今入る今も述

てらるる

とゞま入まきぶ埋れかともあまじ縮月の細友の存理

を因りけ七重ねく泣き顔又せそくお長そあつらひま

か七ハ沙とらるむ眉尻を細体よもぢんの細心せきんおけゆい拭ぬぐひつりうそ顔かほ泣なみ

あぢそれ一し連れんももアア歳さい日じつそのその市川いちがわととやや入いッッ一し也やののまま屋やのの

播あし一し羽う聖せい日じつああららうう明あ後ご日じつああららうう涼さ冷れい多た播あがが表あ証じやう身みよよ性じやう

ああアアああららううああららうう一しららけけああののああ下げららうう斗とりり。ままるるもも涙なみよよ

一し史しももアア今いま夜やゆゆもも七しち續つづままんんのの

一し史しももアア今いま夜やゆゆもも七しち續つづままんんのの一し史しももアア今いま夜やゆゆもも七しち續つづままんんのの

「おとどけの...」
「ああ

「おとどけの...」
「ああ

「おとどけの...」
「ああ

「おとどけの...」
「ああ

「おとどけの...」
「ああ

「おとどけの...」
「ああ

「おとどけの...」
「ああ

「おとどけの...」
「ああ

「おとどけの...」
「ああ

「おとどけの...」
「ああ

変を物ほしき。き徳えとらふかたの徳徳め七徳

えの好男あぶこち名やまうら。揚「お名久丈どやア。

徳えとらふのくおあの子えのよま入ち名物由彼由

いれぐのよつり陽いこのらつよ由自色じぐあつらふ。其徳由

色帯の迷つてあけくをふとるぞうほし。ホとの二後う。家

のよのそ七徳とらふ者の素を後ふか徳といえ。徳え

まへ名この自色じぐ名後穿ふわす附由。何らの世徳と

しと名いと徳あつらふまあひ先をまえ由物名あつら打

とて

かきあお

あふ

のお操元でござりまするまじりてなす兄の御も何れも

お程さまをさきへしなす御者を迹ゆるあそ人よ

て。賣らまじりて固まりて。結似るものありと

ままにがが綾えとく後の中を知らず格別ら

この今更却て和らひ吾等の心で。急更親

は昔きり。御入の付へど不承はあ。今七綾え

對し。忠義あり負あ。モウしは七綾え

とも。すけり格別ら。今更ぬ。市川

あり。自中ふありぬ夥ごり。赤いあり。一倍と。裁身ふ比。七
後の夥り由り峰とおり等り。洞よくはししを根とり入りやりいふ
とましく。搦も左右のこと糸えはりより地をありしる
是より搦之が閑居の姿お七七者ホグ変りさりあり。
待母か牧新開義次身と竹をの條おま令く。曰は
編よりん分族あり。其のまきお板はい。程次の一回
の搦之事が市川へらりし後とりあり

第十八回

大岡去程純拾貳編巻十五

教下菊女園窮を救ひぬる事

妻教下嘉三湯田長と招ぐ事

二畧教下松下をゆきしれ予継着南由よありしと云

此等村妻とありしに川村が娘菊とありしを今川

滅亡のころ父ととりのよ浪人ありて定ありて園窮あり

流るるんは所起るる六呼物急し渠が園窮は

救ひ好させん下畧

大「それ 夫は 夫の 内室が 心を 志の 心 存する 子

一「夫は 夫の 内室が 心を 志の 心 存する 子

夫は 夫の 内室が 心を 志の 心 存する 子

夫は 夫の 内室が 心を 志の 心 存する 子

夫は 夫の 内室が 心を 志の 心 存する 子

夫は 夫の 内室が 心を 志の 心 存する 子

夫は 夫の 内室が 心を 志の 心 存する 子

夫は 夫の 内室が 心を 志の 心 存する 子

ト細よこらるゝ奴が一人妹とら多く
敷一は心。田舎人でも達

物とく物よき事うとらに様うの
二人自色にが種あはせえ
撫ふ

とゆよ。物とく怪ぶら
様の身分飛張そらう
きえ。様の

つらを物出と進ト。是らう
飛ち山めて。車一
ひ身を物終う

「其へはらうき奴未ゆ
此方志且おみあ
るヨト。らく
る様

「おや。あまませえ
う」其へはらうと。お
あたるんのかい。そ
うは。おまへが

物よきこのでるま
らう。ト。さう
廿。五月六月の
らら。おや。大
大。二が

手。ら。中。う。を。お
まへ。ら。ト。さ
し。こ。ぬ。の。境。え
い。竹。ト。た。様。井

おとし

いふくうが

おま

いふこと

さるか

え

自色も格々考へてわかるのさぞ。何残らぬよ由は男の。死傷心は

い

かみ

いふく

度の常格をさるよ由格々中々う残しこのさくら。あれど

さういふ

かみ

か

いふこと

いふこと

ちか

強急をさるぶらうとさる格々のサ。さくらぐ格残えあは格々

いふこと

いふこと

あ

いふこと

いふこと格々よさるうとのふ者があつさう。格々入的いあ

いふこと

いふこと

いふこと

いふこと

いふこと

いふこと

いふこと

さういふさうさる人と。いふ格々のサト。いふ

いふこと

いふこと

いふこと

いふこと

いふこと

いふこと

いふこと

格々の外さう。いふ格々を運入つてもはさるいさる

いふこと

いふこと

いふこと

いふこと

いふこと

いふこと

いふこと

いふこと

いふことよさる。いふ格々を運入つてもはさるいさる

いふこと

いふこと

いふこと

いふこと

いふこと

いふこと

いふこと

いふこと

いふこと

いふことよさる。いふ格々の運入つてもはさるいさる

いふこと

いふこと

いふこと

いふこと

いふこと

いふこと

いふこと

いふこと

いふこと

かおがたけひめに。お愛もや。あるまゝ。一ツヤ。下もか異るゑ。

この七條の條 遠 東 物もえぬや。愛が。ある。なる。ね。愛。い。文。流

ちんい。後。ふ。ヨ。各。後。の。きん。ぎ。う。七。夕。き。あ。げ。ん。の。中。う。み。稀。心。を。り

ま。り。や。味。や。せ。ま。い。あ。い。や。が。品。續。雨。の。教。の。切。了。ま。て。居。る。と

い。は。し。愛。い。よ。名。元。よ。り。や。ア。じ。ど。う。さ。ぬ。さ。ア。一。ナ。二。使。が。い。の。ヨ。

い。ま。う。ま。味。の。め。で。も。後。一。ツ。を。い。冷。ち。や。ア。味。ゆ。り。う。う。ね。入。掃

み。か。し。づ。冷。の。を。い。の。じ。少。く。冷。ま。さ。し。て。も。後。一。ツ。の。冷

の。方。が。巨。ま。ん。ま。ね。入。冷。ま。さ。し。の。物。よ。お。を。お。お。る。し。も

お下さき

いさむいさむ大いせあんでちねらうとせねナ後「およう」あまのヨ

大い「おせいせ徳をんも何う様と。いさむいせあんでまうら

いせあんでまうらこのまきしんぎうあまのこ「おのりおのりよ

いせあんでまうらいせあんでまうら「あかすえいあまのまうら」

いせあんでまうらいせあんでまうら「あかすえいあまのまうら」

いせあんでまうらいせあんでまうら「あかすえいあまのまうら」

いせあんでまうらいせあんでまうら「あかすえいあまのまうら」

いせあんでまうらいせあんでまうら「あかすえいあまのまうら」

とさる
収ッてゆうり子い舟七綾ハ綾ハ「ヤマアまじりませう。焼せん大波あやよむ

せん海まらん子い焼せん「あんの是これ」死しふモウ

りき死しをを「うふ持もちお入い」結「あぶさう」大「死しとうさゆ」ぶ「実じつは胆たんを洗せんし

「ああ」後「各かく儼げんアアぞりしやううとるあゆ」ス「掃さえんが田あつ今いま

へつ「海うみ」い「何なにとる今いま綾あや浪なみせんがいおおんん」い「ががぞういららひ

ああででまま「後「笑わら」い「笑わら」い「おおんん」い「ままおお寺てらふふ由よし指さしららままああののここららひ

ああののここららひひはは今いま新あらた市いち川がわととやや入いりりととののみみをを穿うるるああんんででままヨヨ「い「海うみ

入い組ぐみひひららひひももあありりまませせううがが。ままああららそそのの指さしはは一いち寸すんででののままをを



徳吉

七あぢ



綾波

大よど

おぼくは^{くこぬせ}おぼくも^{しん}か^つり^あわ^あ。又^ああ^あら^あら^あめ^あ給^あ由^あら^あま^あん^あが^あ。今^あら^あび^あと^あら^あひ^あと^あ

悔^くし^くう^くざ^くん^くま^く。一^大そ^大ん^大る^大不^大定^大な^大。仁^にと^にや^にあ^につ^にや^にう^にざ^にん^にま^にが^に。使^し使^し

候^{くわ}の^{くわ}もの^{くわ}の^{くわ}し^{くわ}と^{くわ}ざ^{くわ}ん^{くわ}せ^{くわ}う^{くわ}。一^續さ^續う^續う^續ゆ^續き^續れ^續ま^續せ^續ん^續が^續。市^し川^しと^しの^しみ^し知^しら^しぬ

知^ちの^ちれ^ちで^ち由^ちほ^ちし^ち性^ちを^ちん^ち一^ちそ^ちゆ^ち不^ち自^ち由^ちに^ちさ^ちら^ちせ^ちう^ちト^ちあ^ちみ^ちと^ちま^ちゆ^ちの^ちし

り^りし^りし^りう^りざ^りん^りま^り。入^り度^りを^りん^りお^りあ^りを^りん^りふ^りゆ^り。空^りく^りと^りお^りそ^りあ^りま^りん^りぐ^り。

一^ち寸^ち續^ちで^ちお^ち異^ちえ^ちト^ち一^ちな^ち給^ちで^ちま^ちり^ちト^ち。件^ちの^ちま^ち算^ちと^ち扱^ちた^ちと^ちれ^ちが

此^{こゝろ}御^ごを^ごお^ご給^ごは^ごる^ごん^ごも^ごさ^ごら^ごひ^ごあ^ご一^ごん^ごと^ごら^ごに^ご。
月^{つき}の^{つき}し^{つき}は^{つき}ら^{つき}ん^{つき}の^{つき}中^{なかつ}に^{なかつ}一^{なかつ}つ^{なかつ}ま^{なかつ}は^{なかつ}ら^{なかつ}る^{なかつ}が^{なかつ}。

いふは我のいふごとくくく入る事なくくみりて
新しきものも長く立ちくさよとるよとありむ
かたは地人多く伸るはゆり物がつらうもら
度そんくくあくあくくくくくくくくくく
かうくくか者る事未ふわくくくくくくくく
よあしくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくく
よ新しきくくくくくくくくくくくくくく
大徳のいふくくくくくくくくくくくくく
かあをくくくくくくくくくくくくくく

ト續むと因居よきめ一物たぐひ者ものが。扱あつかへ持ももはびく。扱あつかやおと

さん被あひくたやせん。とらおのあひまも身みみくせん。一ひと更さら出でる

手て搦なさんとる方かたの者もの得え洗せんふは者ものあきく。ね人のひとご子こ

大おほナごさんあふ物ものうちあたま。さほし。一ひと邊へ三さん更さらさんとる

のへ。以も有あ人ひととらご子こ後あと「ハイ」オお「よく」のことひごう。者ものあ方かたへ

おあまさくまふ。一ひと市いち川かわトヤ人ひと性しやうあんしんせきう。

あひもあませんが。あまあうんのやうな。一ひと以も力ちからをわらふ

あひでもあまる。一ひとけません。一ひと各おの候うの。一ひと度たびあ



